



学校だより

2月号

令和3年1月29日

まちのみんなひとつになあれ

「思いやりとは想像すること」

副校長 恒吉 信一

1月8日新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が発令され、再び世の中に緊張感が走りました。教育活動を止めてはならないという方針から休校措置は取られませんでした。昨今の報道の通り、日々のコロナウイルスの感染者の数は高止まりが続いています。

校内では、感染症が広がらないよう教育委員会からのガイドラインをもとに、改めて児童にきちんとマスクを付けることやしっかりと手を洗うことなどを伝えました。また、緊急時におけるICTを活用した児童の学習活動の支援ということで、横浜市全校で児童一人1台のタブレット型の端末環境を整えつつあります。

今まで経験したことのないことが起きていますが、いつか乗り越えることができると思っています。その根底にある原動力は、人を思いやる想像力です。きちんとマスクをして手洗いをすることが、もしかしたら、ご家族のご高齢の方に感染を広げず命を救うことに繋がっているかもしれません。行事を縮小することは、感染確率を減らし、まさに私たち自身の命を守ることに繋がっているかもしれません。

例年、相武山小学校では、授業などにまちの皆さんがたくさん関わったり、地域のお祭りなどの行事が盛んだったりすると聞いています。今年度、そのような様子を見られなかったのは残念ですが、PTAの役員さん委員さんをはじめ、さぶやまボランティアネットワークの方や地域の方から、今のコロナ禍の状態を鑑みて「できるかどうか分からないが、～についてここまではどうでしょう？」「今はコロナで大変だからやめておきましょう。」など、いつもと違う取組に戸惑いながらも、今の時世から、子ども達や職員たちの状況、気持ちまで想像し活動してくださる姿に、「ありがたいな」と感謝の気持ちでいっぱいです。

年末に続き1月13日から、屋外の昇降口や正門の前で「あいさつ運動」が再開されました。子ども達と一緒に「あいさつ運動」をしていると、登校する友達数人の挨拶が小さかったり、聞こえなかったりすることがあり、ある一人の児童が「(自分たちから)大きな声で挨拶しても、返ってこないときびしいもんだね。」とつぶやきました。すると、もう一人の別の児童が「(挨拶されないと寂しいでしょ)だから、今度から自分たちから挨拶するんだよ。」と返していました。挨拶されない経験を通して、挨拶が返ってこない「寂しい」という人の気持ちを学んでいる瞬間でした。きっとこの児童は、以前よりも人の気持ちを想像できる感性を少し身に付けたはずです。挨拶はコミュニケーションの一步ですが、お互いのことを想像し思いやる第一歩でもあります。

人を思いやることについて小説家・天台宗の尼僧である瀬戸内寂聴さんは次のような言葉を語っています。「相手が今何を求めているか、何に苦しんでいるかを想像することが思いやりです。」

これからも私たち教職員は、保護者や地域の方々とともに、相武山小学校の子ども達が相手の気持ちを想像し思いやれる子ども達になるよう育てていきたいと考えます。今後とも保護者の皆様、地域の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。